

# 環境活動レポート

令和7年度



有限会社 スズキサービス

## 1. 会社概要

(1) 商号

有限会社 スズキサービス

(2) 本社所在地

〒270-2231 千葉県松戸市稔台5-15-17(稔台工業団地内)

(3) 電話/FAX

Tel 047-365-6356 Fax 047-365-6194

(4) Web Site

<http://www.suzukiservice.co.jp/>

(5) 代表

代表取締役 鈴木 正己

(6) 役員

常務取締役 鈴木 正

取締役 地曳 光徳

取締役 鈴木 まゆ美

取締役 地曳 真紀子

(7) 設立

昭和63年8月

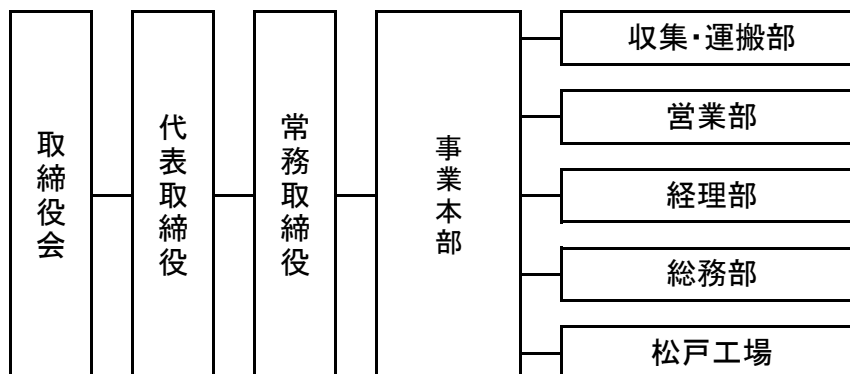
(8) 資本金

10,500,000円

(9) 従業員数

80名

(10) 組織図



(11) 営業内容(処分業部門)

産業廃棄物処分業(中間処理)

① 許可証記載内容

許可の年月日 : 令和 7年 3月31日  
 許可番号 : 第01220024295号  
 施設の種類 : 中間処理(破碎、減容固化、圧縮固化)  
 廃棄物の種類 : 廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず  
 金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず  
 設置場所 : 千葉県松戸市稔台5-15-17、18、19  
 処理能力 : 廃プラスチック類 140.72t/日、紙くず 177.04t/日  
 (8h/日) 木くず 4.79t/日、繊維くず 27.47t/日  
 ゴムくず 4.52t/日、金属くず 27.6t/日  
 ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず 13.08t/日

② 施設概要

敷地面積 : 2462.14m<sup>2</sup>  
 工場延床面積 : 2067.40m<sup>2</sup>

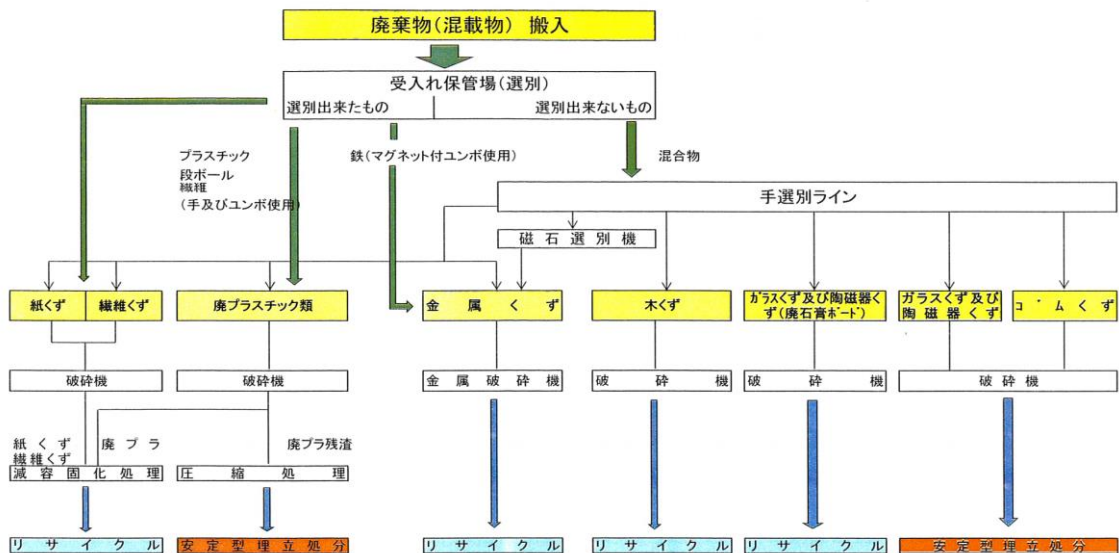
③ 処理の状況

処理量 : 16471.79 t(令和7年度実績)  
 内リサイクル量 : 14156.33 t(令和7年度実績)

④ 保有車両

フォークリフト(軽油・ガソリン) 5台 油圧ショベル・ユンボ 4台(電動・軽油)

⑤ 処理工程



(12) 営業内容(収集運搬業部門)

産業廃棄物収集運搬業

① 許可証記載内容

許可の年月日 : 令和4年1月20日 (千葉県)  
許可番号 : 第01210024295号(千葉県)  
事業の範囲 : 収集運搬(積替・保管を含む)  
廃棄物の種類 : 廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず  
金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず  
汚泥、廃油、動植物性残さ、がれき類

② 処理の状況

運搬量 : 15003.26 t(令和7年度実績)

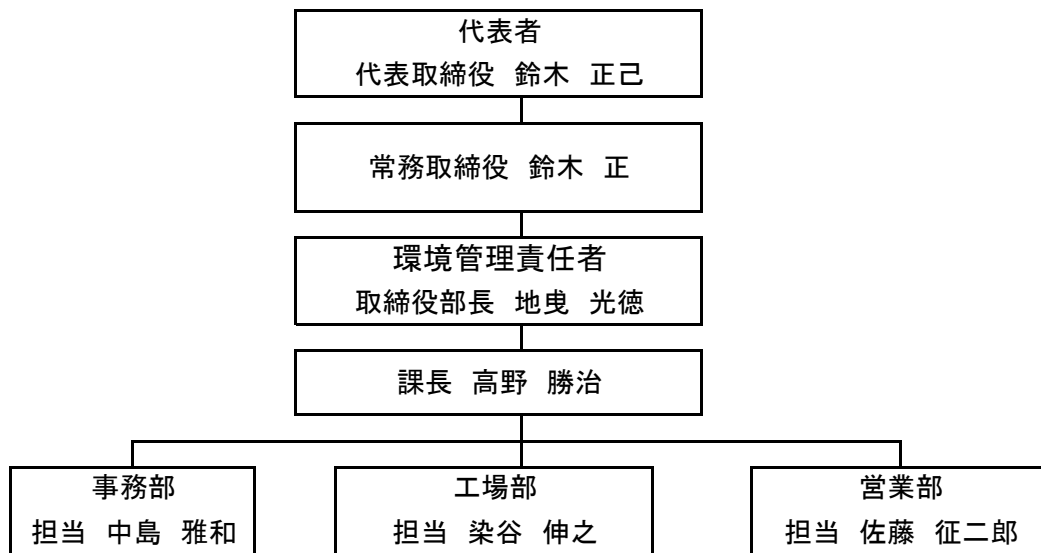
③ 保有車両

10t車 2台、4t車 11台、2t車 10台、6t車 1台、塵芥 8台、他 2台

④ 保有許可都県(許可番号)

東京都(第1300024295号)、埼玉県(第01101024295号)、千葉県(第01210024295号)  
神奈川県(第01401024295号)、茨城県(第00801024295号)、群馬県(第01000024295号)  
栃木県(第00900024295号)、静岡県(第02201024295号)

(13) 環境管理組織



(14) 環境関係責任者及び連絡先

責任者 取締役部長 地曳 光徳  
電話 047-365-6356  
FAX 047-365-6194

(15) その他資格、認証

環境 … ISO14001(JSAE1572)

産廃 … 産廃エキスパート(東京都優良性評価基準)

(16) レポート対象期間及び発行日

対象期間 : 2025年 4月 1日~2026年 3月31日

発行日 : 2026年 6月

(17) LCA分析の実施(目的と調査範囲)

収集運搬業及び処分業を営む上で発生する環境負荷量を明らかにし、その結果を元に、環境負荷量の軽減に向けて取り組みを実施する。

データの収集範囲は、収集運搬業に関しては燃料の使用量、処分業に関しては、電力の使用量とし、そこから発生するCO<sub>2</sub>の量を算出する。

## 2. 環境方針

# 環境方針

### 1. 環境理念

有限会社スズキサービスは、地球環境保全が21世紀における人類の最も重要な課題の一つであることを認識し、廃棄物の適正処理・再資源化の推進を通して、地域社会と地球の未来に貢献する尊い使命を担います。

### 2. 基本指針

#### 1) 資源の有効利用および環境負荷の低減と汚染の予防

一般廃棄物並びに産業廃棄物の適正な処理と再資源化の積極的な実施により、環境保全、そして、限りある資源の有効利用を促進します。

また、業務で使用する資源及びエネルギーの効率的な利用と節約を図り、環境負荷の低減に努めるとともに、環境汚染の予防に取り組みます。

#### 2) 法規制などの順守

当社の事業活動・サービスに適用される法規制条例、及び当社が同意する要求事項を順守します。

#### 3) 継続的取り組み

環境マネジメントシステムを構築し、環境方針に沿って目標を設定し、その達成状況の見直しを行い、継続的に改善して行きます。

また、定期的に内部監査を実施し、システムの継続的な改善により、環境パフォーマンスの向上に努めます。

#### 4) 環境方針の周知と公表

この環境方針は全社員及び当社のために働くすべての人に周知します。

また、求めがあれば環境方針を社外に対しても公表します。

2022年4月1日

有限会社スズキサービス  
代表取締役社長

鈴木 正己

### 3. 環境負荷の実績（分析と評価）

令和5年4月～令和6年3月の環境負荷実績は表—1の通りです。

表—1

項目	単位	R6年度実績	R7年度実績	評価
二酸化炭素排出量(電力) (CO <sub>2</sub> )	t	567.04	562.23	○
二酸化炭素排出量(燃料:軽油他) (CO <sub>2</sub> )	t	862.51	868.31	○
廃棄物 年間運搬量	t	14,242.03	15,003.26	-
廃棄物 年間処理量	t	15,712.15	16,471.79	-
再商品化量	t	4,823.64	4,345.05	-
廃棄物等総排出量	t	10,888.51	12,126.74	○
〃 内 リサイクル処理	t	8,630.76	9,811.28	○
〃 内 最終処分量	t	2,257.75	2,315.46	○
総排水量	m <sup>3</sup>	775.00	853.00	-
化学物質排出量	t	0.00	0.00	-
太陽光発電設備発電量(有スズキサービス所有)	kwh	令和7年度	399,879	

### 4. 今後の環境目標と計画

表—2

項目	令和6年実績	令和7年実績	次年度目標
使用電力量	1,254,507kwh	1,243,882kwh	-
廃棄物(t)当たり使用電力 削減目標=(前年比-1%)	79.84kwh/t	75.52kwh/t	-
前年度から算出した目標値	75kwh/t	75kwh/t	75kwh/t
目標達成率	93.94%	99.31%	-

\* 上記令和7年度実績値は廃棄物処理量1t当たりの数値です。

### 5. 環境活動の取り組みと評価（影響評価と今後の取組）

#### 1) 事務所

環境目標	取組項目	結果	取組、評価
一般廃棄物の削減	ビン、ペットボトルの分別	○	分別、再利用共に実施できたシュレッダーに掛けない廃棄用紙を浦上活用等を行う。
	コピー紙の再利用	○	
電力の削減	冷房28℃、暖房22℃の設定	○	冷暖房の温度設定を適温に変えていく作業を細目に行い、無駄の無い運転を行った。
	OA機器のこまめなON/OFF	○	
	必要以外の照明OFF	○	
グリーン購入の推進	グリーンマーク商品の購入	△	グリーンマークの購入一部実績あり

## 2) 工場、車両

環境目標	取組項目	結果	取組、評価
電力の節減	ヒーター使用設備の効果的利用	○	機器類の適正運転はできた。 故障機器重機無し。
	機器類の適正運転の実施	○	
	破碎機メンテナンスによる過負荷の抑制	○	
燃料:軽油の削減	動線の整備による省エネ走行	○	車両定期整備の実施。 旧車両の使用頻度を減らし、比較的に新しい低燃費車両の使用頻度を上げていく。 車両待機中のアイドリングストップ等の実施。
	廃棄物搬入作業の効率化	△	
	エコドライブ10の実施による省エネ走行	○	
	車両整備による燃料ロス防止	○	
工場環境の向上	夏季冷房手段の検討及び導入	○	夏季温度対策を実施。 スポットクーラ、屋上スプリンクラーの稼働
	選別工程改良による効率化	△	

結果: ○=出来ている △=一部出来ている ×=出来ていない

## 3) 総合評価

廃棄物処理量に対しての使用電力量削減、

収集運搬事業車両の燃費効率、ともに向上傾向です。

大選別、手選別の効率化を図り、会社全体のリサイクル率向上努める。

水道使用量が大幅に上がったことについて、水道の閉め忘れや漏水等の調査を行い、原因を明確にするとともに、もう一度節水に注視して作業を行うこと。

## 6. 事業活動内容

- 1) スズキサービスでは、産業廃棄物の種類や状態、排出量に応じて、適した車両を提供し、収集・運搬から中間処理、そして最終処分までの一貫した処理システムを構築しております。
- 2) 店舗什器、オフィス什器をはじめパソコン及び周辺機器、大型コンピュータ類、各種端末類、交換機等の通信機器、ゲーム機器等の複合素材物まで、徹底した解体・分別・破碎を行なうことで素材としてのリサイクル(マテリアルリサイクル)を実現しています。
- 3) あらゆる種類の廃プラスチック及び紙原料を細かく破碎し、圧縮成型(RPF)することにより石炭などの代替燃料として活用するサーマルリサイクルを推進しています。
- 4) 化石燃料の消費を抑制すると共に、CO2の排出量を削減するなど資源循環型社会の構築に貢献しています。

以上